

＜株式会社エフエム東京 第322回放送番組審議会議事録＞

1. 開催年月日：平成17年5月10日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 本社10階大会議室

3. 出席委員（6名）

子 安 美知子	委員長		
青 池 愼 一	副委員長	内 木 文 英	委員
伊豫田 康 弘	委員	渡 辺 貞 夫	委員
横 森 美奈子	委員		

4. 番組試聴

【番組名】 「TRANSIT」

【放送日時】 2005年4月28日（木）20：30～21：55
（一部 4月6日（水）放送分）

【番組概要】

「TRANSIT」は、一日の仕事を終え、自宅にてリラックスした時間を過ごすM1F1世代に向けて、4月からスタートした新番組です。

ビデオリサーチ社の調査によると、M1F1層の半数が19:30には帰宅しており、インターネット利用が19:45頃から増え始めます。リラックスしながら自分を磨くために情報を集める…そんな時間を過ごすターゲットリスナー像が浮かび上がってきます。その時間をより有意義に演出するための番組として、明日に向かう通過点、新たな自分へ乗り換え、という意味を込め、「TRANSIT」を月曜～木曜20:30～21:55に生放送で編成しました。

番組では、リスナーが自分を磨いたり、仕事のアイデアのヒントを得るきっかけとなるような、世界中のエンタテインメントやカルチャー、ニュースなどの情報を独自の視点で集めて提供しています。番組ホームページでは、番組で紹介した情報のほか、ニューヨーク・ロサンゼルス・ロンドン・パリ・ミラノの定点カメラからの現地の映像を見ることができるようになっています。

番組のパーソナリティは、音楽プロデューサー、コラムニスト、作詞家、サーファーなど多彩な顔を持つジョージ・カックル（GEORGE COCKLE）とインテリジェンス溢れるトークに定評がある小山ジャネット愛子が担当。また選曲は、東京発のアダルト・コンテンポラリー・ミュージックをコンセプトに、SMOOTH JAZZなどを中心に選んでいます。

「TRANSIT」内には4つのコーナー番組を編成しています。

- ・ 『Knockin' on the World』・・・海外の各都市から届くカルチャー・エンタテインメ

ントや経済などの最新情報をご紹介します。

- ・ 『Knockin' on the World〜Lounge』・・・Knockin' on the Worldで紹介したトピックスの中から1つをピックアップして独自の視点で深く掘り下げて紹介します。
- ・ 『Style Cafe』・・・各界の著名人を招いてロングインタビューを行います。
- ・ 『Across the border』・・・パーソナリティのジョージ・カックルが今まで旅してきた国々での出会いと別れをモノローグで紹介します。

今回は、番組オープニング部分（4月28日放送）とコーナー番組の中から『Knockin' on the World』（4月28日放送）と『Across the border』（4月6日放送）をご試聴頂きます。

<試聴時間 約18分>

【委員の意見】

- ◇ 聴きやすい番組だった。なんとなく聴き入ってしまう理由としては、パーソナリティのジョージ・カックルと小山ジャネット愛子のトークのトーンが、ソフトで落ち着いた雰囲気を持っており、安心して聴けるものであったからだと思う。個人的には、20:30からの時間帯に、インターネットを見ながら聴くには、ちょうどいい番組だと思った。番組タイトルである「TRANSIT」の意味を番組のコンセプトとして、どう捉えているかお聞かせ頂きたい。

【社側説明】

- ◇ 「TRANSIT」という言葉を聴いてイメージするのは、空港のラウンジや「通過する」「乗り換える」ということであるが、この他に「物を運ぶ」という意味を持っている。古くは、シルクロードの文化で物を運ぶ、交流させるという意味でも使われていたこともあり、パーソナリティのジョージ・カックル氏とも相談した結果、この言葉が番組のコンセプトに非常に合っている、ということになった。

【委員の意見】

- ◇ 非常に良い番組だという印象を受けた。情報が豊かで、各地のローカル性を持った情報を良く伝えてくれている。海外に、旅に、思わず想いをはせてしまうような番組だった。パーソナリティの2人の語りもととても心地良かった。また、個人的にもこの番組にインスパイアされて、どこかに行きたいなあ、と思ってしまった。
- ◇ 個人的には自分の持っている感覚とは大分違うと感覚の番組だと思った。ただ、このような雰囲気を楽しめる人と、そうではない人がいるのは仕方の無いことである。この番組は酒で例えるとカクテルのようなイメージ。個人的には泡盛派である。こういう番組は私たちの世代には耳新しいものであった。
- ◇ 冒頭で英語が多く使われているのが気になった。他のFM局の放送であるかのような印象を受けた。日本語をもっとちゃんと多用してもらいたい。番組の趣旨自体は非常に良いと思った。パーソナリティ2人の会話は聴きやすかった。ただ、リラックスした雰囲気の番組であるためか、エピソードがちょっとだらだらと長い印象を受けた。ジャマイカのエピソードはもっと凝縮して簡潔に纏めることができたと思う。

- ◇ 面白く聴かせてもらった。こういう時間帯は騒がしい番組が放送されていることが多いが、良い意味で“キャピキャピ”していないトーンの番組を放送するという試みは新しくて素晴らしいと思った。2人の喋り方のトーンの違いが気になった。ジョージ・カックルは普通に話しているが、小山ジャネット愛子はきちんとした、アナウンサーのような喋り方をしている。そこに何か狙いがあるのだろうか。また、良い意味で、ジョージ・カックルがどういう人物なのか知りたくなるような放送だった。

【社側説明】

- ◇ 番組のスタンスとしては、ジョージ・カックルがメインのパーソナリティで、小山ジャネット愛子はアシスタントという位置付けである。ジョージ・カックルは現在48歳で鎌倉生まれのハーフである。高校までは日本にいて、大学からはサンフランシスコに移っている。世界中を旅してまわってきている、という経歴を持つ。

【委員の意見】

- ◇ 個人的に、夕食が終わってちょうどパソコンに向かう時間帯の放送なので、クリックしてみようかなあという気になる番組だった。戦後は海外に行くことは特別なことだったが、今は仕事や遊びや、その境界線も分からないくらい、肩肘張らずに行き来するようになっている。日本人が地球を俯瞰できるようになってきている。海外の話題はありきたりではないものになってきている。しかし、今回のオークションの話題などはありきたりではない話題で、面白い番組だと思った。小山ジャネット愛子のトークはとて面白いと思った。この5都市以外の話題も入ると面白いと思った。特にベルリンは今とても面白い。これからヨーロッパが変わっていくにあたり核となる都市である。

【社側説明】

- ◇ 都市の数については、これから増やしていきたいと考えている。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送: 番組「TOKYO FMブランニューソング」
5月27日(金)5:00-6:00 放送
- ② 書面: TOKYO FMサービスセンターに備え置き
- ③ インターネット: TOKYO FMホームページ内
<http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回の審議会は6月7日(火)に開催することを決めた。

以 上